

---

報道発表資料

## 企業の商品ならびに生物多様性保全の取り組み に対する第三者意見書を発表

パナソニック株式会社に対しバードライフが初の評価を実施！

---

バードライフ・アジア(東京都千代田区)は、日本の企業に対し生物多様性保全への取り組み強化を提唱してきましたが、このほどパナソニック株式会社に対し、3商品の商品特性ならびに事業活動全般に対する生物多様性評価を実施し、第三者意見書として発表しました。

パナソニック株式会社は2009年10月に生物多様性プロジェクトを発足させ、3つの重点分野として「商品」、「調達」、「立地・土地利用」を指定し、各々の分野での取り組みを推進することを決定しました。バードライフ・アジアは生物多様性と関係が深いと思われる3商品「ムシベール」、「タフナレイ」、「竹繊維スピーカー」の商品特性ならびにパナソニックグループの事業活動全般に関する生物多様性側面の分析依頼を受けたことを機に、英国本部(国際環境 NGO バードライフ・インターナショナル)の協力を得て、独立した第三者の立場で分析と評価を行いました。

ムシベールおよびタフナレイについては商品特性の機能面から、竹繊維スピーカーについては商品特性の原材料面から生物多様性に対するインパクトを検証し評価しました。主な生物多様性への依存と影響、生物多様性に関連するリスクとチャンス进行分析し、3段階のリスクタイプのどこに位置しているかを示し、次のアクションのための行動指針を提案しました。今回の対象商品は全て生物多様性配慮型の商品として最もリスクが少ない「I」タイプに位置づけられました。

また、パナソニックグループの生物多様性保全に対する取り組み状況については、「The Corporate Ecosystem Service Review Guidelines for Identifying Business Risks and Opportunities Arising from Ecosystem Change Ver.1」等の考え方を参考に、国内事業場の状況を分析しました。続いて事業活動の各プロセスおよび社会貢献活動についての現時点での総合的な評価を行いました。その結果、各事業プロセスで想定される生物多様性に対する脅威は、その影響の程度に差異があり様ではないこと、また十分な把握もなされていないことが明らかになりました。

総合評価は、「生物多様性民間参画ガイドライン第1版」(環境省編)を参考に、独自に開発した「企業の生物多様性取り組み総合評価シート」等を用いて検証・評価を行いました。製造業であることから、原材料調達、土地利用、事業場操業、設計・開発には「取り組み内容」と「到達度」を評価し、

販売・物流および社会貢献活動は「取組み内容」のみを評価し、100点満点で61点となりました。これは「理想的と考えられるレベル」のSに続く、「努力が十分に認められるレベル」のAで、高い評価結果となっています。ただし、今回の評価はパナソニック株式会社より提示された関連書類とヒヤリング内容の分析に基づいたもので、提供された書類の真偽分析はしていません。

バードライフ・インターナショナルは、「生物多様性はあらゆる自然生態系の基盤を代表するものであり、種の減少や絶滅は地球上の全ての生命を支えるのに不可欠な生態系サービスを損なう。企業にとって生態系保全の必要性や意味は、システムの変質と破綻を回避し、生態系サービスを持続可能な形で享受しつづけることにあり、健全な生態系は企業活動の基盤になり、避けて通ることができない」との考えを持っています。企業があらゆる側面で生態系への配慮をすることによって生態系保全に果たせる役割は大きく、全ての企業に生態系に配慮した環境経営を強化して欲しいと願っています。

一例として、バードライフ・インターナショナルは、生物多様性に対する影響を削減、緩和、そして最終的にはオフセット（相殺）するための効果的なモデルを開発するために、企業と建設的かつ戦略的な関わりを模索してきました。英豪資本のリオテント社とは2004年から生物多様性・オフセットのモデル事業構築のためのテスト事業を世界数カ所を実施しています。またNGOや企業、政府で構成されている任意団体BBOP(Business and Biodiversity Offsets Program)にも参加し、企業活動による生物多様性への影響を最小化し、ゼロあるいはプラスにするための原則や実行のためのマニュアル、ガイドラインづくりを進めています。

今回の生物多様性評価は、バードライフ・アジアが実施した日本で初の試みとなります。評価結果から、パナソニックグループは自社の得意とする分野で生物多様性保全への対応策を提示しており、同時に商品や事業活動を通じてステークホルダーの関心にも応えようとしているものの、商品に内在するチャンスを積極的に活用し、あわせて少ないながら存在する生物多様性上のリスクを技術開発等により極小化できる余地があることが明らかにされました。パナソニック株式会社が生物多様性保全の重要性を認識し、3商品と事業活動全体についての評価に踏み切られたことは真の意味で環境先進企業への第一歩を踏み出されたことと高く評価するとともに、この事例がきっかけとなり、他の多くの日本企業に同様の取組みが広がることを期待しています。

本件に関するお問い合わせ先  
バードライフ・アジア 鈴江恵子

<http://www.birdlife-asia.org>

TEL: 03-5213-0461 FAX: 03-5213-0462

〒101-0061 東京都千代田区三崎町 2-14-6 TM水道橋ビル 4階

## <添付資料>

### バードライフ・アジアについて

バードライフ・アジアは、バードライフ・インターナショナル\*のアジア部門として、2002年に東京に事務所を開設しました。アジア13カ国のパートナー団体とともに、鳥を指標とした重要な生息環境の保全や、森林保全を通じた生物多様性の保全、地球温暖化防止のためのさまざまな活動を推進しています。

バードライフ・アジアのパートナーは13カ国/地域。日本では(財)日本野鳥の会をパートナーに協働事業を展開しています。

\*バードライフ・インターナショナルは1922年に英国で発足した、世界でも最も古い歴史を持つ国際環境NGOです。113カ国に250万人のネットワークを擁し、名誉総裁には高円宮妃殿下にご就任いただいています。

### 評価3商品



ムシベール（室内活用事例）



タフナレイ



竹繊維を使ったスピーカー